

研究主題

『確かに読み取る力を育てる指導の在り方』

～ 説明的文章の指導をとおして～

I 研究目標

説明的文章の学習過程及び学習指導を工夫することによって、確かに読み取る力を育てる指導の在り方を明らかにする。

II 研究仮説

説明的文章の学習過程及び学習指導を工夫することによって、確かに読み取る力を育てることができよう。

III 研究内容と方法

1 研究内容

- (1) 確かに読み取るための、説明的文章の学習過程及び学習指導の工夫を明らかにする。
- (2) 確かに読み取る力を支える読解技術を育てる方法を探る。

2 研究方法

- (1) 理論学習（先進校視察や研修会等への参加による研究と、文献・資料などによる理論研究）
- (2) 実態調査（読むことに関する児童の意識調査）
- (3) 授業実践を行い、仮説の検証を図る。

IV 研究の実際

1 説明文の指導について

《これからの説明文教材の指導観について》

「説明文を読み取る」とは

文章で扱われている事柄や現象についての内容を、学習者がすでに身につけている知識や見識を土台にして、想像したり、類推したりすること。つまり、読み方指導とは、想像や類推ができる力を付けてやること。

(『言語技術を生かした新国語授業』『論理的思考力を育てる授業の展開』渋谷孝・市毛勝雄より)

《説明文を取り扱う意義》

「論理的思考力」の育成

何を伝えるために、筆者は何をどう工夫して述べているか等、表現内容や表現、段落相互を関連づけて捉え、自分なりの論理を組み立てていく能力であるとともに、自らの意志を的確に伝えていく能力として転化される力

「論理的思考力」とは

「表現内容や表現、相互段落を、文章全体を視野にいれながら、関連づけて捉える力」である。換言すると、「表現内容や表現の論理、ひいては、筆者の論理を読む力」とも言える。

情報化社会を生きる言語行動力の育成

読書行動、対話行動、記述行動（言語生活を形作る行動様式）を通して言語行動力を育てる。「～を調べたい」「～について知りたい」等の明確な目的意識をもとに、進んで読書し、情報を探求し、「論理的思考力」を駆使しながら、自分にとって必要な事柄や内容を的確につかむとともに、対話したり記述したりしながら、自分の考えを深め、自分のこれからの生活づくりや行動決定に生かしていく。

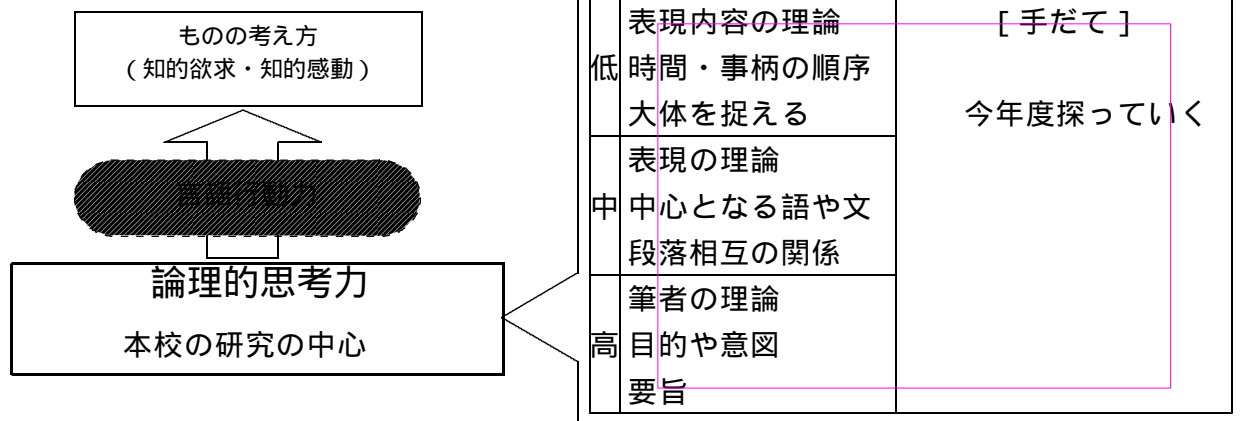
ものの考え方の育成

優れた説明文には、知的欲求を満たし、知的感動を喚起する教育的価値を有する内容や事柄が、豊富に述べられている。興味、関心を引き出しながら、論理的な思考のもとに、言語行動力を育てる中で、よりよい生活づくりや行動決定につながる有益な価値認識を子どもの中に豊かに醸成していく。

指導の目的としての意義

指導の結果としての意義

《本校の研究のイメージ》



V 研究の成果と来年度の方向性

1 研究の成果

- (1) 説明的文章の学習過程及び学習指導を工夫した提案授業を行ったことにより、子どもたちに次のような姿が見られるようになった。

低学年は教材文の言葉を元にイメージをふくらませ、順序に注意して大まかに読み取ることができるようになった。

中学年は、文章の構成や段落相互の関係をつかめるようになってきた。

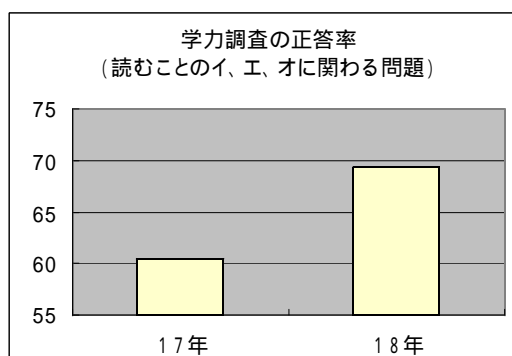
高学年は、基本的な文章構成が捉えられるようになった。また、キーワード、キーセンテンスを見つけようと読むことで段落を読もうとするようになった。

- (2) 確かに読み取るための基本的な考え方を共通理解し、そのための手だてについて授業を通して探ることができた。

- (3) 説明的文章に対する基本的な考え方や指導方法について、学習することができた。

- (4) 子どもたちの説明的文章への苦手意識がなくなった。また、物語に偏っていた読書傾向に説明的文章への広がりが見られ、新しい知識を得る楽しさを感じられるようになってきた。

- (5) 学力調査における「読むこと」のイ、エ、オに関連する問題において、全校の正答率に約9ポイントの伸びが見られた。



2 来年度の方向性

- (1) 目指す児童像をより具体的にし、そのような児童を育てるための手だてを明確にする。
- (2) 共通の視点をもって毎回の研究授業や年間を通じた校内研究の振り返りができるようにする。
- (3) 年度当初に検証計画をたてる。
- (4) 指導内容及びの各学年のつながりをさらに探っていく。